

注意報第2号

農研生環第80号  
平成16年6月3日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発令について（送付）

このことについて、平成16年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

注 意 報

平成16年度発生予察注意報第2号

平成16年6月3日  
熊本県病害虫防除所長

農作物名	スモモ、モモ、ナシ、カンキツ類、カキ
病害虫名	果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

1 予報内容

- (1) 発生地域 県下全域
- (2) 発生時期 6月以降
- (3) 発生程度 平年比 多

2 注意報発令の根拠

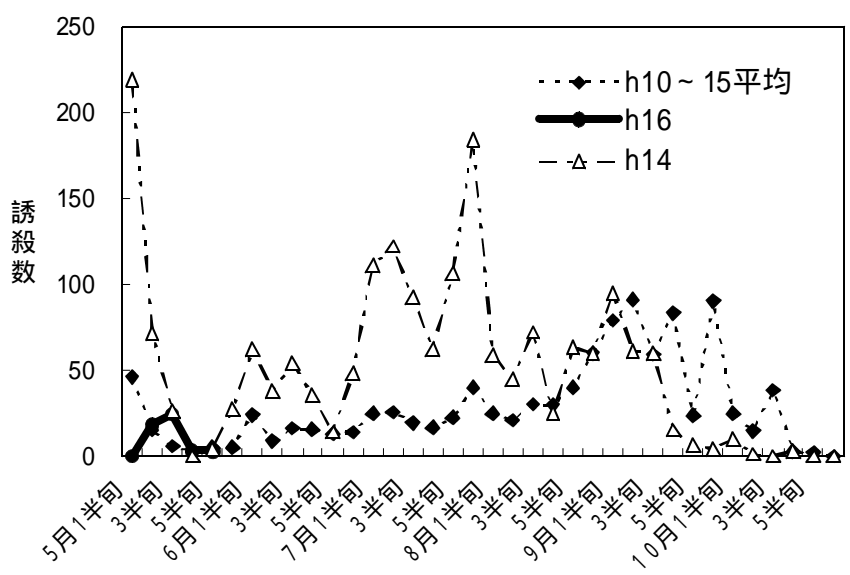
- (1) 5月に入ってから、フェロモントラップへの誘殺数が多く、この時期としては例年にない状況で、最近の多発年平成14年よりも多い。予察灯への誘殺は平年よりやや多く推移している。（図1～3）
- (2) 4月5半旬の調査開始時から、果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの予察灯、フェロモントラップへの誘殺数が比較的多く、越冬成虫の活動が早い傾向にある。
- (3) 5月中にカンキツ園、ブドウ園、カキ園に少数の飛来が認められている。今後気温の上昇に伴って活動が活発となり、果樹への飛来および加害が増加すること

が予想される。

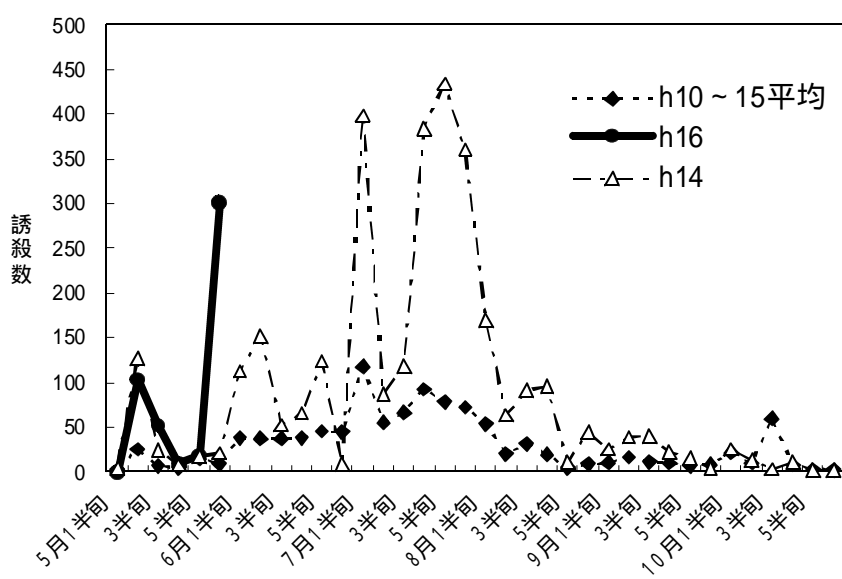
- (4) 本年はヒノキ、スギの花粉量が少なく、果樹カメムシ類の主な繁殖源であるヒノキ、スギの球果量は少ないと予想される。果樹カメムシ類は、ヒノキ、スギの球果が成熟する6月下旬～7月上旬に山林へ移動し、球果を餌として産卵するため、この時期果樹園への飛来は減少する。しかし、本年は球果量が少なく、山林へ移動したカメムシ類が果樹園に移動し被害を与える恐れがある。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類は飛来性害虫で、防風林や付近の山林から飛来してくるので、園をよく見回り成虫の発生に注意し初期防除を徹底する。多発年の平成8年や14年にカメムシ類の被害があった園や地域では、特に注意が必要である。
- (2) 園内だけでなく、園周辺の寄主植物(サクラやクワの果実、キリの葉やケヤキ等の樹木の新梢、6月下旬以降はヒノキやスギの球果等)への飛来状況に注意する。
- (3) 使用薬剤は、対象作物と病害虫に登録のあるものを用い、使用回数、使用時期を厳守して農薬の安全使用に努める。



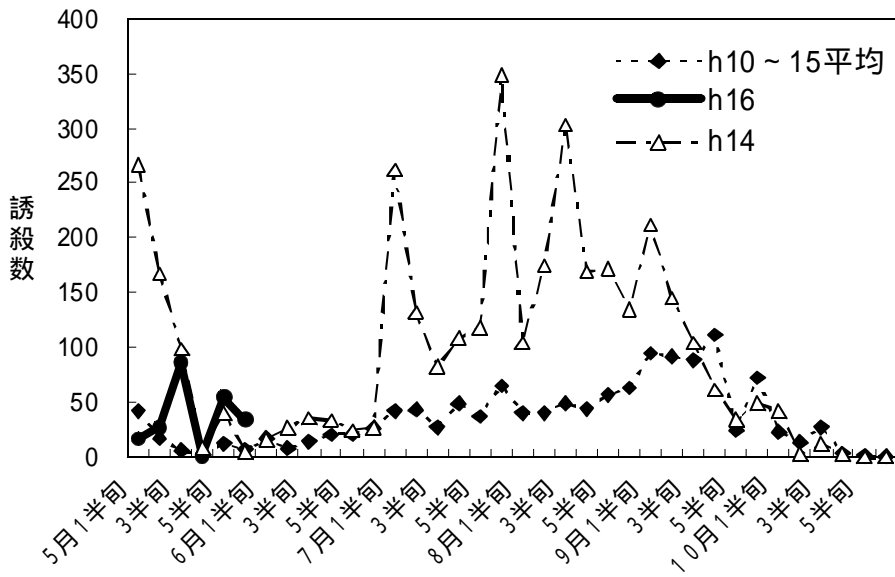
### 予察灯誘殺数



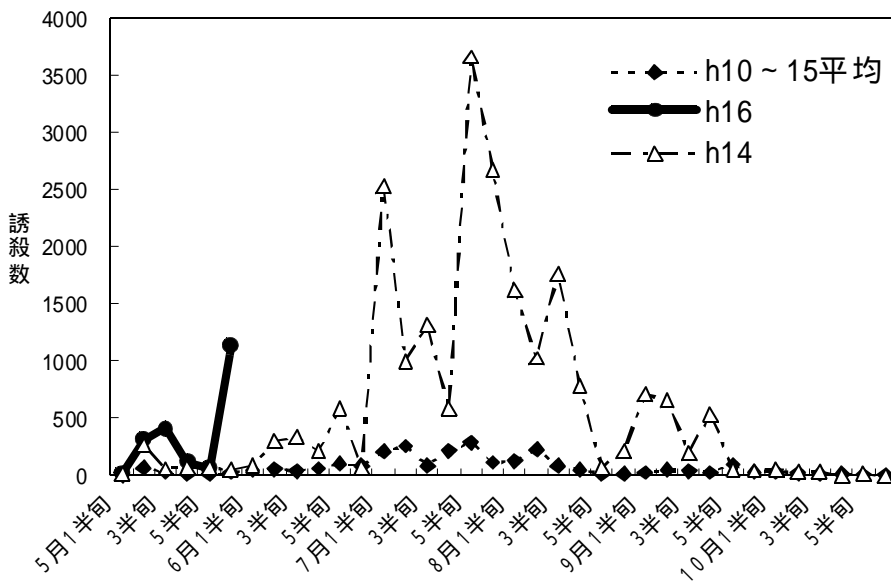
### フェロモントラップ誘殺数

図1 予察灯とフェロモントラップの誘殺数(合志町)

注1: 誘殺数はチャバネアオカメムシの数値である。  
 注2: 平成14年は近年の多発年で、前半発生型の年であった。  
 注3: 予察灯は100w水銀灯である。



### 予察灯誘殺数



### フェロモンラップ誘殺数

図2 予察灯とフェロモンラップの誘殺数(松橋町)

注1: 誘殺数はチャバネアオカメムシの数値である。  
 注2: 平成14年は近年の多発年で、前半発生型の年であった。  
 注3: 予察灯は100w水銀灯である。

